

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年 6月 30日

【評価実施概要】

事業所番号	2270600493
法人名	有限会社 富南
事業所名	グループホーム 富南の郷里
所在地 (電話番号)	静岡県三島市安久 660-10 055-982-1019
評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡市清水区迎山町4番1号
訪問調査日	平成21年3月21日

【情報提供票より】(平成21年03月05日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 03 月 01 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤	16人, 非常勤 7 人, 常勤換算 19.5 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	12,600 円	
敷 金	有(120,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	500 円
	夕食	400 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要(平成21年03月05日現在)

利用者人数	15 名	男性	3 名	女性	12 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	8 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.1 歳	最低	72 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	斎藤医院 ・ うめなクリニック ・ 杉田整形
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの名前は、法人代表の先祖の名前「富南(ふなん)」にちなんだものであり、その先祖の「孝」の思想を地域福祉に実現しようとしている。富士を仰ぎ、大場川の堤を擁し、隣接する代表者の広い敷地の古木・果樹・草木を愛でる恵まれた環境にある。地域密着型に相応しい理念を掲げ、代表・管理者・職員が一丸となってその実現に取り組んでいる。介護事業を拡大して通所介護・訪問介護・高齢者専用賃貸住宅等を運営し、この地域に福祉の事業が根付きつつある。運営推進会議は地域からの理解も得られ、更なる充実が期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の意義をよく理解し、昨年の指摘事項については、殆ど改善されていた。特に自己評価票作成に全員で取り組んでくれた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価票作成においては、1Fユニット・2Fユニット夫々に全職員で取り組み、改善に活かそうとしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議ではホームの状況報告だけでなく出前講座も行われ、時間を超過するほど議論も活発である。この制度が始って以来、2ヶ月に1回着実に開催されている。特にメンバーが多彩で、市・包括支援センター・家族会代表・町内会長の他に近隣三つの地区の民生委員・老人会長他も参加している。また、「地域運営推進会議」と称し、地域で法人が運営している通所介護・訪問介護・高齢者専用賃貸住宅の責任者も参加し、サービスの向上に努めている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情・相談窓口は重要事項説明書に明記され、外部の受け付け窓口もあることも説明している。出された意見はケア会議で話し合い、運営に活かす努力をしている。利用者の暮らし振りや健康状態については、家族の来訪時や担当職員から写真を添えた毎月のお便りで報告している。しかし、家族アンケートではホームの努力が正当に理解されていない意見も見られた。ホームでは当たり前だと思っているサービスも、知らされないと心配な面もある。毎回ではなく、時には「こんなサービスを日常行っています」というふうな報告の工夫が求められる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会にも加入し、お花畑コンサート等の地域行事への参加・ホーム行事へのお誘い等、地域との交流は活発である。これからはごみ拾い等の社会貢献や公民館で老人会の方とレクリエーションなども計画されている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームへの並々ならぬ思いから、地域密着型に相応しく「・・地域の方と共に ゆったり ゆっくり 第三の人生を 共に(お供して)歩む」という独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホーム内の各所に掲示され、勤務表にも記載され、カンファレンス時にも意識し、日々その実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会にも加入し、お花畑コンサート等の地域行事への参加・ホーム行事へのお誘い等、地域との交流は活発である。これからはごみ拾い等の社会貢献や公民館で老人会の方とレクリエーションなども計画されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己・外部評価の意義を良く理解しており、昨年度の指摘事項は殆どが改善されていた。今回の自己評価票作成においては全職員で取り組み、改善に活かそうとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	この制度が始って以来、2ヶ月に1回着実に開催されている。特にメンバーが多彩で、市・包括支援センター・家族会代表・町内会長の他に近隣三つの地区の民生委員・老人会長他も参加している。また、「地域運営推進会議」と称し、地域で法人が運営している通所介護・訪問介護・高齢者専用賃貸住宅の責任者も参加し、サービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常の報告・連絡・相談の他に市の相談員が深くかかわっており、中立の立場で家族会にも参加し、共にサービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らし振りや健康状態については、家族の来訪時や担当職員から写真を添えた毎月のお便りで報告している。しかし、家族アンケートではホームの努力が正当に理解されていない意見も見られた。	○	ホームでは当たり前だと思って行なっているサービスであっても、家族等が知らないのでは誤解が生じることもあり、事業所にとっては「寂しい」結果となってしまう。家族等へ「良かれと思ってやっている当たり前のサービス」をアピールすることで安心感を与えることができるような報告の工夫が求められる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口は重要事項説明書に明記され、外部の受け付け窓口もあることを説明している。出された意見はケア会議で話し合い、運営に活かす努力をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職を抑えるよう最大限の努力を払っている。現在は安定しているが、業務の拡張に伴い法人内異動を気にする意見も見られた。	○	業務拡張による一時的な法人内異動であったとしても、利用者や家族は気になり心配である。状況が落ち着くまで、不安を最小限に抑える努力を引き続きお願いしたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に対しては熱心で、シフト上可能な限り研修機会を確保し、受講者のレポートを基にその共有化を図っている。研修の記録はあるが、事前の研修計画は見られなかった。	○	職員の資質や経験に応じて必要な項目につき一人ひとりのレベル分析等を行い、OJT(実務を通じての研修)・内部講師による研修・外部研修に分け、「この職員にはこの研修」といった年間研修計画を基にした実施方法も検討されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三島市のグループホーム部会に参加し、意見交換や交流を図っている。今後はこの会の中心となってネットワークづくりや勉強会・相互訪問等の活動を通じ、更にサービスの質向上に取り組もうとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	フェイスシートを参考に本人や家族と相談し、入所前に見学してもらい、馴染みながらサービスが受けられるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活体験から滲み出るアドバイスも多い。元クリーニング屋のプロからお祭りのハッピーの畳み方や洗濯物の干し方、料理の味付けや掃除の仕方等、教わりながら支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の際のアセスメントや、日常の観察の中から本人が何をやりたいか聞き出す努力をしており、その意向をケアプランや日常の支援に反映している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がより良く暮らすために、毎月のケア会議で本人や家族の意向・職員のアイデアを出し合い、ケアプランを作成している。更に、ケアプランの課題との適合性・プランに基づくケアのあり方を検討している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者に変化が生じた場合は勿論のこと、ケアプランに基づく定期的なモニタリングを実施し、変更必要箇所があれば、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人代表者宅に隣接した広い敷地内で、季節にあった作物を利用者や職員と一緒に作り、収穫している。納涼祭では本人・家族・地域住民・同一法人運営の利用者等を入れて食し、楽しんでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にこれまでのかかりつけ医か、ホームの提携医にするかを、本人や家族等の意向を尊重して決めている。急変時には24時間電話対応可能な医師を確保している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方について、マニュアルも定められており、家族・医師・看護師・職員と連携して話し合っている。4月1日より新設予定の「ターミナル加算」が受けられる状況にあるか、前向きに検討中である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を傷つけることの無いよう、言葉掛けには充分注意を払っている。カンファレンス等の個人情報には全て事務所で管理し、大事なものは施錠できる場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の介護において、一人ひとりのペースを大切にしており、できるだけ手を出さずに見守っている。天気の良い日の散歩・畳コーナーやソファでの足揉み等、その場の判断で極力本人の意向に沿い、自由に過ごしてもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は業者から配達してもらっている。調理とか盛り付けについて、できる人には手伝ってもらっている。また、利用者の好みにあうように調理されており、水分も多めにとるように、職員がそれとなく見守っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂は毎日沸かし、入浴の順番も争いにならないよう公平に決められており、バブルジェットや炭酸泉水利用など、楽しみながら入浴できるよう配慮している。入浴拒否の場合は、誘導の仕方の工夫や日を変えるなどの対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	広い敷地を利用し、季節の花壇や野菜作りをしたり、桜の花見の計画もされている。花見計画の話には生き生きとした楽しげな顔つきがみられた。その他お花畑コンサートや秋の収穫祭等気晴らしの行事が多彩である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地のアプローチはアスファルト舗装され、玄関にはスロープがあり、車椅子でも日常的に散歩ができるよう配慮されている。戸外から眺める富士の姿が素晴らしく、事業所に閉じこもらないよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの重要性を理解し、昼間は施錠していない。一部の人から、今時なにかがあるか解らないから、昼間も玄関の鍵は掛けた方がよいではないかとの意見もあったが、理解を求めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルが作成され掲示されている。防災訓練は毎年実施されている。毎月、緊急連絡網、消火器・懐中電気の点検を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝、昼、夕食の前に入居者がその時の献立を読み上げ、食事を楽しんでいる。献立表には毎食のカロリーが計算され、業務日誌に水分摂取量も記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間・生活空間は、2ユニットとも十分なゆとりが確保されており、清潔感に溢れている。リビング・ホール・廊下には、利用者と共に作る季節感ある製作物や各種行事の写真等が飾られ、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時に自宅で使用していた物を持参していただくように声かけしており、居室には馴染みのものが置かれ、本人が居心地よく過ごせる雰囲気である。		